

長田区社会保障推進協議会 総会

安心して医療を受けることができる社会を

神戸支部も加盟する長田区社会保障推進協議会は昨年 12 月 6 日、第 23 回定期総会を開催、加盟団体から 11 人が参加した。次年度活動方針を確認し、木村彰宏先生（いたやどクリニック院長・協会予備評議員）が代表幹事に再選された。

記念講演では木村彰宏先生が「地域の医療をまもるために」をテーマに講演。病院や診療所が経営難になる理由を解説し、「医療・福祉に対する国の基本的な考えが、患者窓口負担を増やし、薬剤の OTC 化を促進、診療報酬の削減、医学部定員を削減して医師数を減らし、病院・診療所を淘汰していこうとする流れにあり、それらは国民皆保険を崩壊させるものである。病院・診療所がなくならないようにするために、軍事経済大国か科学福祉立国のどちらを選ぶのかが問われている」とした。

また、「子どもの病気と生活のいま」について、「多くの急性感染症がコントロールされるようになったため乳児死亡数・死亡率は大変低くなった。子どもの喘息は減少し、喘息で亡くなる子どもはゼロになった。一方で、子どものアレルギー、睡眠に問題を抱える子ども、神経発達症が増加傾向にある。小児科医療は、子どもの体と心の健康をトータルで支える場所であり、収益にならないことでも、患者の 20～30 年先を見据えた治療を行っている。にも関わらず、小児科医が減少しているため、小児科医を目指せるような医療体制にならなければいけない」と解説した。



木村彰宏先生が地域医療の大切さを参加者に解説した

神戸支部ニュースへの投稿を募集しています

支部ニュースへの投稿を募集しています。
日常診療にかかわることや、主張、趣味のお話などお寄せください。

ご投稿は

TEL078-393-1807 / FAX078-393-1820

e-mail konishi-s@doc-net.ne.jp へお寄せください！



兵庫県保険医協会 神戸支部ニュース

394 号

2026 年 1 月 25 日付

発行 兵庫県保険医協会神戸支部

〒650-0024 神戸市中央区海岸通 1-2-31 神戸フコク生命海岸通ビル 5 F

兵庫県保険医協会 TEL078-393-1801 FAX078-393-1802

2026 年 新年のご挨拶

しっかり手綱を取り 正しい方向へ導く年に



神戸支部長 田中 孝明

新年あけましておめでとうございます。会員の先生方におかれましては、日頃より地域医療の充実と保険医協会の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

2025 年は、医療・社会保障を取り巻く環境が一層厳しさを増した一年でありました。政府による医療費抑制策は、「効率化」や「適正化」の名のもとに診療報酬の抑制や患者負担の増加を推し進め、現場の疲弊を深めています。医療の質を維持しつつ、持続可能な制度を守るためには、現場の声を政策に反映させる不断努力が欠かせません。

兵庫県保険医協会神戸支部としても、診療報酬改定への対応や医療安全・勤務環境改善の取り組みに加え、地域住民の健康を守るための情報発信と行政への要望活動を一層強化してまいります。

本年の干支は「丙午（ひのえうま）」です。「丙」は陽の火を表し、明るく勢いのある年である一方、「午」は活発に動く力を象徴します。燃え盛る火の勢いに、しっかりと手綱を取り、正しい方向へ導くことが求められる年ともいえるでしょう。私たちも、この丙午の年にふさわしく、情熱をもって声を上げ、制度の歪みに立ち向かう姿勢を貫いてまいります。

地域の医療を支える一人ひとりの努力が、社会全体の健康と安心へとつながることを信じ、本年も支部一同、力を合わせて取り組んでまいります。

先生方にとりまして、実り多く健やかな一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

研究会「頭痛の格別診断」～感想文～

「外来の頭痛患者 どう識別する？」



頭痛の鑑別診断を学んだ参加者



講師の立花久大先生

神戸支部は 11 月 29 日、協会会議室とオンラインで研究会を開催。西宮協立脳神経外科病院脳神経内科の立花久大先生を講師とし、26 人（来場 7 人、オンライン 19 人）が参加した。

田中孝明支部長が司会を務め、伊丹市・ここしあ診療所院長の武田正中先生が座長を務めた。

参加した土山雅人先生の感想を紹介する。

西宮協立脳神経外科病院の立花久大先生（同院名誉院長、日本頭痛学会名誉会員）による「頭痛の鑑別診断」の講演に出席しました。私は以前に在職していた兵庫医大で先生にご指導いただいたことがあり、懐かしい気持ちでお話を聞くことができました。

頭痛は日常よく遭遇するコモンディジーズですが、その背景には多種多様な病態が含まれています。

今回の講演ではこの頭痛に関して、一次性（機能性）頭痛と二次性（症候性）頭痛の違い、診療所で治療すべき頭痛と病院に送るべき頭痛の鑑別などについて豊富な自験例を用いて丁寧に解説されました。

まずは一次性頭痛（主に診療所で治療すべき頭痛）として片頭痛、緊張型頭痛、群発頭痛などを取り上げられ、二次性頭痛（主に病院へ送るべき頭痛）としては各種の脳血管障害、低髄液性頭痛、動脈炎、脳炎・髄膜炎さらには耳鼻科、眼科疾患による頭痛などについて画像所見なども含めてご提示いただきました。

また薬剤の使用過多による頭痛や高齢者の頭痛、危険な頭痛のスクリーニングなどにも言及され、まさに頭痛診療のテーマパークのようでした。

実地医家の外来における頭痛患者への対応としては、頭痛が一次性頭痛か二次性頭痛かを見分けることが重要であり、後者の場合は緊急の処置が必要な場合があり時に生命に危険が

（3面へつづく）

（2面からのつづき）

及ぶこともあるので専門施設との連携が必須であることが良く理解でき、明日からの診療に大いに役立つ講演だったと思いました。

今回は時間の関係からか、残念ながら頭痛の治療に踏み込んだお話は聞けませんでした。例えば片頭痛に関してもこの数年の間にいくつかの新たな治療薬が使われるようになり治療のパラダイムシフトが起こったと聞いています。最近の頭痛の治療についても機会があればぜひご講演いただきたいと期待しています。

【西宮市 土山 雅人】

中央区社会保障推進協議会 総会

大問題の マイナ保険証強制と薬の保険外し



武村先生が社会保障改悪に反対し社会保障を充実させようと参加者に訴えた

協会神戸支部も加盟する中央区社会保障推進協議会は、昨年 12 月 17 日に総会を開催。1 年間の活動まとめや次年度方針を確認し、武村義人協会副理事長・神戸副支部長の副会長再任などを承認した。

武村副会長が「マイナ保険証の強制と薬の保険外し」をテーマに記念講演した。武村副会長は、全国保険医団体連合会の調査で、窓口でのマイナ保険証による資格確認でのトラブルが医療機関の 7 割で発生しているにもかかわらず、従来保険証の廃止が強行されたこと、日本維新の会が与党入りしたことで薬の保険外しが進められていることを解説。これらの社会保障改悪に反対し、『内部留保』に象徴される体力のある大企業の負担で社会保障を充実させようと訴えた。